臺灣日日新報 (夕刊) 第一万二千九百五十六號 昭和十一年四月二十三日 (木曜日)
臺灣新聞 (夕刊) (第二期) (京城配信) 昭和十一年五月九日第三種郵便物認可 四月二十二日 定価一部一銭

# 聯盟や今明

## 南米諸國の代表も公然嘲笑を放つ

### 無力振りを完全に暴露 歐洲のみの機關へ

【ジュネーブ二十日發本社特電】聯盟理事會議長は二十日午後十時十五分公開會議で伊エ紛爭決議案が採擇さるるや伊エ紛爭の爲め臨時召集された特別理事會は之を以て終了した旨を宣した、聯盟が斯かる申譯的な決議採擇のみで和協努力拋棄同樣の消極的態度を決定した事は聯盟の無力を徹底的に暴露したもので、南米方面の聯盟代表の間には公然たる嘲笑の言辭が弄せらるると同時に、斯かる經過が機緣となつて聯盟を「純歐洲問題の國際商議機關たる宣使命へ立ち返らせる時期が齎て到來するであらうと云ふ觀測が有力である

# 藏相と財界の巨頭 諸問題につき懇談

## 馬場藏相所信を披瀝して 熱誠なる協力を要望

【東京二十二日發】馬場藏相は廿二日午前十時より兜町の日本興業銀行に於ける財界巨頭の懇談會に臨み、財界より寄せられた諸問題に對し左の如き藏相所信を披瀝すべく、午後七時半より丸ビル内東京會館に於ける財界巨頭との懇談會に臨んだ、尚藏相は廿三日午前十時より貴族院に於ける豫算總會に出席する筈である

一、財政政策 財政政策に關しては從來屢々述べた如く、國防の充實と財政の健全化とを期し、この兩者の調和を圖ることが最も肝要であると信ずる、從つて豫算の編成に當つても、この點に重點を置いて考慮を拂つた次第である、尤も豫算の編成は單に一年度のみの問題ではなく、數年度に亙る財政計畫の樹立が必要であるから、この點に關しても目下研究中である

二、國防問題 現在の國防問題は、内外より見て、國防の充實は一日も速かに圖らねばならぬ狀態にあるが、國防の充實は國力の發展と相俟つて始めて眞の國防の充實となるのであるから

# 末次特命檢閱使
## けふ〝常磐〟で離臺
### 出發前・基隆を視察

【臺北から基隆へ　本社電話】特命檢閱使末次海軍大將は二十二日午前八時二十三分發列車にて臺北から基隆へ向ひつゝあり

【基隆發電話】特命檢閱使末次海軍大將は二十二日午前九時十三分發列車にて

# 紙衣祖師（88）

吉川英治作　山村耕花畫

## 越路篇

### 花紛々（二）

「この君になつて――この有るまじき世の醜を見ようとは……」

月輪公は呟いた。

夜のうちに自害になつたと聞くばかりで、――いやそれよりも公卿から大名の上下、庶民の末に至るまで、――いや、それよりも公卿から大名の上下、庶民の末に至るまで、――いや、それよりも公卿から大名の上下、庶民の末に至るまで、――いや、それ

# 外相計畫開四相會議
## 期大陸太平洋政策
## 完全遂行三相共鳴

東京二十二日電。有田外相。去十四、十八兩日。與廣田首相。重要協議已遂更與寺內陸相。永野海相懇談。頃廣田首相。有田外相。寺內陸相。永野海相之間。設置四相會議之事。意見一致。訂來二十四日閣議後會後。開第一回會議。今後原則每週一回。金曜日閣議後會後。仍約外務陸海軍三相會開。有必要應田首相。亦出席協議。如得成案。路之閣議。確定爲國策。此四四相會議。正爲四相間。自由交換意見之機關。就外交。於國防所關一般問題。廣行交換意見。以便國防外交。緊密提携。期我對俄對華各中心之大陸政策。及建艦自主權同從之太平洋政策。遂行無所遺憾云。

# 二爲處現下非常時局
## 與財界巨頭懇談會
## 藏相披瀝所信

東京二十二日電。馬場藏相。且藤官民一致協力。打開現下之非常時局。欲與財界各方面巨頭。互誠時局之重大。將來之金融。財政政策之方向諸問題。交爲懇談。究照藏相此意圖。與財界巨頭之懇談會。因鄉誠之助力發旋。二十一日午後六時。開之赤坂星岡茶寮。財界鄉男。賢井坂茅。原邦造。大橋新太郎。串田萬藏。牧田環諸氏出席。以主賓馬場藏相爲中心。共陳各自之意。鄉男爲發旋後紋禮。謝藏相爲非常時財政擔任各自之勞。併論一層努力。藏相乃開現下內外非常時局根本認識。及其所應盡職。財政。經濟政策新方向。披瀝所信要望。財界各方面。熱誠協力。相與打開。縱々懇談。同十時散會云。

# 聖德記念繪畫館
## 壁畫完成記念式
### 閑院總裁宮殿下台臨

東京二十一日電。準備十年。創作十二年。或至二十一年。全壁壁巨匠。村與雲仙。完成明治天皇御遺業記念壁畫八十枚完成記念式。二十一日午後二時半。在神宮外苑聖德記念繪畫館。仰閑院總裁宮殿下台臨盛大舉行。先是一時三十分。會長德川家達公。以下壁畫寄納者。揮毫者。並物故揮毫者遺族等。整列館前。御出迎理。想裁宮殿下。駕臨繪畫館。步入畫室。將日本北洋畫各四十點聖畫。一々詳覽。同二時三十分。在館內中央廣間。舉記念式。殿下對役員寄納者。揮毫者。賜下令旨。同三時。在館內陪下東側廣間。賜一同御茶。同三時二十分。駕發還畫館。同二十分。恰然歸邸云。

# 勅選六七名補充
## 來廿四日附諸閣議
### 中川總督亦在銓衡中

東京二十一日電。廣田首相。因特別議會切迫。將補充勅選敕員。曾爲經選其數十名候補者中。先確立閣內閣所引繼之小原直。自根佐介。大橋八郎三氏。他貴族院議員資格問題。特愼重銓定。財界。官界。其他各方面功勞者。來二十四日定例閣議。合應附議。今者。鈴木政友會總裁不易。其他財界兒玉正金頭取。杜田大阪商船社長兩人中補一名。官界中川臺灣總督。今井田朝鮮政務總監。松井京大總長。出淵。永井各。御大使。及此間地方長官異動勇退之佐上前北海道長官。鈴木前京都府知事等。九有呼聲云。

# 稅制改正準備
## 委員幹事
## 任命十名

東京二十一日電。馬場藏相。關於昭和十二年度豫算。著手中央及地方稅制根本的整理刷新。欲待特別議會後。從速開稅制改正準備。委員會。方參作成具體案。今日欽應內外致

爲稅制改正準備委員會委員。命大藏省主稅局長山田龍雄。大藏省記官松隈秀雄。大藏事務官竹內新平三氏。爲稅制改正準備委員會幹事云

# 花蓮港電力
## 新發電所
## 將著手工事

花蓮港電氣會社。爲整劃全島下電力。由該電所供給。因對南水淡發電所著手調查。近已完了。乃向當局提出願書。若得許可。即欲著手工事。該發電所用地。豫定二萬坪。可供給二千基雖電力。第一期事業。先供給砂金及豐田。第二期供給玉里。瀨大統一。第三期供給鳳林。第四期供給玉里。瀨大統一。第三期供給鳳林。第四期供給玉里。瀨大統一。第三期供給鳳林。第四

臺灣日日新報
昭和十一年四月二十三日　第一万二千九百五十六號　（水曜日）
（一）

北都帝大醫學部教室
中澤博士指導
吉田醫院長推奨

# 三井生命

## 奉仕一貫・躍進一途

### 躍進一途　最高の記錄

三井經營後僅か九ケ年、年々加速度的躍進を續け、保有契約高は此の間十倍以上に達し、斯界の最高記錄を攻めました

### 安い保險料　高い配當

餘裕綽々たる配當準備金　定評ある安い保險料で、しかも高率配當　高率配當で、しかも配當回數の斷然多い事が當社の特色であります、配當開始も早く、滿期後ばかりでなく、途中萬一の場合其の後も引續き、配當があり御加入者全部の御利益を本位にした、理想的配當であります

### 奉仕一貫　健康相談部の新設

我社は終始一貫御加入者奉仕を社是とし御愛顧に報ゆるやう努力して居りますが今回更に健康相談部を新設して、最新科學の粹を集め、御加入者のため社內診察、書面相談等凡ゆる醫學上の御相談に應じて居ります

### 不斷の改善　最新の保險

我社は保險利用の各種御希望に副ふため不斷の改善を加へ常に新しい保險の提供に努めて居ります

我國最新の保險料免除特約の創始　團體特別取扱の實施

右は其の一端に他なりません

三井生命保險株式會社　本店　東京市日本橋區室町二丁目一番地

# 錄附大二の號月五部樂俱人婦の夏

錄附大　別冊一第

# 婦人俱樂部

流行新型七十種を發表の大附錄

手縫でも立派に出來るので非常な評判！

大特長

（大內容）

▲第一に今年の流行型で特に日本婦人相應しい型▲第二に誰方にも着易くなつても似合ふ一般向の型▲第三に誰方にも作り易い經濟なもので材料も成るべく安いもの▲第四に型、生地、配色等を終行同趣味に偏らぬもの等々右の四大特長を以て同型七十種選定一型紙の作り方、生地の數え方、縫ひ方に至る迄懇切丁寧に圖解して說明してございますから、どこのお家庭でも易々と作ることが出來ます。

（第二別冊大附錄）ドレスメーカー女學院長杉野芳子先生著

# 洋裁獨習書

帝都有數の洋裁學校と定評あるドレスメーカー女學院長杉野芳子先生苦心の著！

# 日本で初めての洋裁獨習書!!

▲婦人子供服一般の作り方（順序▲スタイルの選び方▲材料と用具（布地の裏と縫ひ方（用布の裏と縫ひ方）▲洋服各部の名稱▲用布の裁ひ方▲基礎縫の仕方▲基礎になる縫方（袖ぐりとミシン）▲各部分の縫方（襟の作り方▲ポケットのつけ方▲ベルトのつけ方▲スカートのつけ方▲スリットの作り方▲ゴム入れ方▲プレスの仕方）

附錄二大

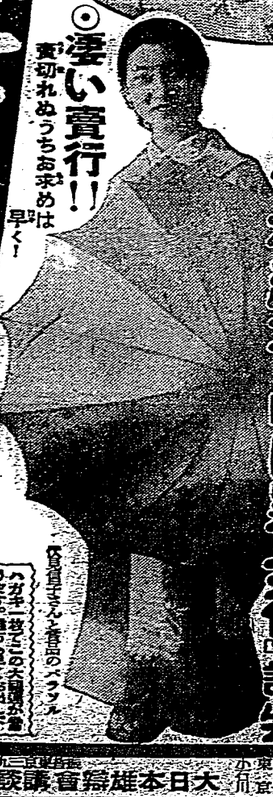
# 子供服

ースト・トレスの型紙（ムテザイン四歳女の子用ワンピース（ベビー服一般ロンパース（六歳女の子用ドレス（六歳男の子用アンサンブル（子供下着一般用タイツ其他

# 婦人服

（八種類の作り方入）ワンピース・ドレスの型紙（ムテザイン四歳女の子用ワンピース（ベビー服一般ロンパース（六歳女の子用ドレス（六歳男の子用アンサンブル（子供下着一般用タイツ其他

# お子樣繪本「ロ」黒兵衛が大評判



◎凄い賣行！！賣切れぬうちお求めは早く！

ハガキ一枚でこの大附錄が參ります。郵便局備付の振替貯金用紙に必要事項を御記入の上、最寄の郵便局へ御持參下さい。新流行ベスト五百本贈呈！

# 新流行ベスト五百本贈呈

大懸賞

（二大附錄）六十五錢（送料十錢）

東京小川

大日本雄辯會講談社



# 汽船發着表

## 內地

### 大阪商船

◎基隆出帆（午前）
門司行　高砂丸　四月廿七日
神戶行　同　丸　四月廿八日
大連行　同　丸　四月廿九日
大連行　同　丸　五月一日
門司行　同　丸　五月二日
神戶行　同　丸　五月三日
大阪行　同　丸　五月四日
大連行　同　丸　五月五日
大連行　同　丸　五月六日
大連行　同　丸　五月七日
大連行　同　丸　五月八日
大連行　同　丸　五月九日
大連行　同　丸　五月十日
大連行　同　丸　五月十一日
大連行　同　丸　五月十二日
大連行　同　丸　五月十三日
大連行　同　丸　五月十四日
大連行　同　丸　五月十五日
大連行　同　丸　五月十六日
大連行　同　丸　五月十七日
大連行　同　丸　五月十八日
大連行　同　丸　五月十九日
大連行　同　丸　五月二十日
大連行　同　丸　五月二十一日
大連行　同　丸　五月二十二日
大連行　同　丸　五月二十三日
大連行　同　丸　五月二十四日
大連行　同　丸　五月二十五日
大連行　同　丸　五月二十六日
大連行　同　丸　五月二十七日
大連行　同　丸　五月二十八日
大連行　同　丸　五月二十九日
大連行　同　丸　五月三十日
大連行　同　丸　五月三十一日
大連行　同　丸　六月一日
大連行　同　丸　六月二日
大連行　同　丸　六月三日
大連行　同　丸　六月四日
大連行　同　丸　六月五日
大連行　同　丸　六月六日
大連行　同　丸　六月七日
大連行　同　丸　六月八日
大連行　同　丸　六月九日
大連行　同　丸　六月十日
大連行　同　丸　六月十一日
大連行　同　丸　六月十二日
大連行　同　丸　六月十三日
大連行　同　丸　六月十四日
大連行　同　丸　六月十五日
大連行　同　丸　六月十六日
大連行　同　丸　六月十七日
大連行　同　丸　六月十八日
大連行　同　丸　六月十九日
大連行　同　丸　六月二十日
大連行　同　丸　六月二十一日
大連行　同　丸　六月二十二日
大連行　同　丸　六月二十三日
大連行　同　丸　六月二十四日
大連行　同　丸　六月二十五日
大連行　同　丸　六月二十六日
大連行　同　丸　六月二十七日
大連行　同　丸　六月二十八日
大連行　同　丸　六月二十九日
大連行　同　丸　六月三十日
大連行　同　丸　七月一日
大連行　同　丸　七月二日
大連行　同　丸　七月三日
大連行　同　丸　七月四日
大連行　同　丸　七月五日
大連行　同　丸　七月六日
大連行　同　丸　七月七日
大連行　同　丸　七月八日
大連行　同　丸　七月九日
大連行　同　丸　七月十日
大連行　同　丸　七月十一日
大連行　同　丸　七月十二日
大連行　同　丸　七月十三日
大連行　同　丸　七月十四日
大連行　同　丸　七月十五日
大連行　同　丸　七月十六日
大連行　同　丸　七月十七日
大連行　同　丸　七月十八日
大連行　同　丸　七月十九日
大連行　同　丸　七月二十日
大連行　同　丸　七月二十一日
大連行　同　丸　七月二十二日
大連行　同　丸　七月二十三日
大連行　同　丸　七月二十四日
大連行　同　丸　七月二十五日
大連行　同　丸　七月二十六日
大連行　同　丸　七月二十七日
大連行　同　丸　七月二十八日
大連行　同　丸　七月二十九日
大連行　同　丸　七月三十日
大連行　同　丸　七月三十一日
大連行　同　丸　八月一日
大連行　同　丸　八月二日
大連行　同　丸　八月三日
大連行　同　丸　八月四日
大連行　同　丸　八月五日
大連行　同　丸　八月六日
大連行　同　丸　八月七日
大連行　同　丸　八月八日
大連行　同　丸　八月九日
大連行　同　丸　八月十日
大連行　同　丸　八月十一日
大連行　同　丸　八月十二日
大連行　同　丸　八月十三日
大連行　同　丸　八月十四日
大連行　同　丸　八月十五日
大連行　同　丸　八月十六日
大連行　同　丸　八月十七日
大連行　同　丸　八月十八日
大連行　同　丸　八月十九日
大連行　同　丸　八月二十日
大連行　同　丸　八月二十一日
大連行　同　丸　八月二十二日
大連行　同　丸　八月二十三日
大連行　同　丸　八月二十四日
大連行　同　丸　八月二十五日
大連行　同　丸　八月二十六日
大連行　同　丸　八月二十七日
大連行　同　丸　八月二十八日
大連行　同　丸　八月二十九日
大連行　同　丸　八月三十日
大連行　同　丸　八月三十一日
大連行　同　丸　九月一日
大連行　同　丸　九月二日
大連行　同　丸　九月三日
大連行　同　丸　九月四日
大連行　同　丸　九月五日
大連行　同　丸　九月六日
大連行　同　丸　九月七日
大連行　同　丸　九月八日
大連行　同　丸　九月九日
大連行　同　丸　九月十日
大連行　同　丸　九月十一日
大連行　同　丸　九月十二日
大連行　同　丸　九月十三日
大連行　同　丸　九月十四日
大連行　同　丸　九月十五日
大連行　同　丸　九月十六日
大連行　同　丸　九月十七日
大連行　同　丸　九月十八日
大連行　同　丸　九月十九日
大連行　同　丸　九月二十日
大連行　同　丸　九月二十一日
大連行　同　丸　九月二十二日
大連行　同　丸　九月二十三日
大連行　同　丸　九月二十四日
大連行　同　丸　九月二十五日
大連行　同　丸　九月二十六日
大連行　同　丸　九月二十七日
大連行　同　丸　九月二十八日
大連行　同　丸　九月二十九日
大連行　同　丸　九月三十日
大連行　同　丸　十月一日
大連行　同　丸　十月二日
大連行　同　丸　十月三日
大連行　同　丸　十月四日
大連行　同　丸　十月五日
大連行　同　丸　十月六日
大連行　同　丸　十月七日
大連行　同　丸　十月八日
大連行　同　丸　十月九日
大連行　同　丸　十月十日
大連行　同　丸　十月十一日
大連行　同　丸　十月十二日
大連行　同　丸　十月十三日
大連行　同　丸　十月十四日
大連行　同　丸　十月十五日
大連行　同　丸　十月十六日
大連行　同　丸　十月十七日
大連行　同　丸　十月十八日
大連行　同　丸　十月十九日
大連行　同　丸　十月二十日
大連行　同　丸　十月二十一日
大連行　同　丸　十月二十二日
大連行　同　丸　十月二十三日
大連行　同　丸　十月二十四日
大連行　同　丸　十月二十五日
大連行　同　丸　十月二十六日
大連行　同　丸　十月二十七日
大連行　同　丸　十月二十八日
大連行　同　丸　十月二十九日
大連行　同　丸　十月三十日
大連行　同　丸　十月三十一日
大連行　同　丸　十一月一日
大連行　同　丸　十一月二日
大連行　同　丸　十一月三日
大連行　同　丸　十一月四日
大連行　同　丸　十一月五日
大連行　同　丸　十一月六日
大連行　同　丸　十一月七日
大連行　同　丸　十一月八日
大連行　同　丸　十一月九日
大連行　同　丸　十一月十日
大連行　同　丸　十一月十一日
大連行　同　丸　十一月十二日
大連行　同　丸　十一月十三日
大連行　同　丸　十一月十四日
大連行　同　丸　十一月十五日
大連行　同　丸　十一月十六日
大連行　同　丸　十一月十七日
大連行　同　丸　十一月十八日
大連行　同　丸　十一月十九日
大連行　同　丸　十一月二十日
大連行　同　丸　十一月二十一日
大連行　同　丸　十一月二十二日
大連行　同　丸　十一月二十三日
大連行　同　丸　十一月二十四日
大連行　同　丸　十一月二十五日
大連行　同　丸　十一月二十六日
大連行　同　丸　十一月二十七日
大連行　同　丸　十一月二十八日
大連行　同　丸　十一月二十九日
大連行　同　丸　十一月三十日
大連行　同　丸　十二月一日
大連行　同　丸　十二月二日
大連行　同　丸　十二月三日
大連行　同　丸　十二月四日
大連行　同　丸　十二月五日
大連行　同　丸　十二月六日
大連行　同　丸　十二月七日
大連行　同　丸　十二月八日
大連行　同　丸　十二月九日
大連行　同　丸　十二月十日
大連行　同　丸　十二月十一日
大連行　同　丸　十二月十二日
大連行　同　丸　十二月十三日
大連行　同　丸　十二月十四日
大連行　同　丸　十二月十五日
大連行　同　丸　十二月十六日
大連行　同　丸　十二月十七日
大連行　同　丸　十二月十八日
大連行　同　丸　十二月十九日
大連行　同　丸　十二月二十日
大連行　同　丸　十二月二十一日
大連行　同　丸　十二月二十二日
大連行　同　丸　十二月二十三日
大連行　同　丸　十二月二十四日
大連行　同　丸　十二月二十五日
大連行　同　丸　十二月二十六日
大連行　同　丸　十二月二十七日
大連行　同　丸　十二月二十八日
大連行　同　丸　十二月二十九日
大連行　同　丸　十二月三十日
大連行　同　丸　十二月三十一日
大連行　同　丸　一月一日
大連行　同　丸　一月二日
大連行　同　丸　一月三日
大連行　同　丸　一月四日
大連行　同　丸　一月五日
大連行　同　丸　一月六日
大連行　同　丸　一月七日
大連行　同　丸　一月八日
大連行　同　丸　一月九日
大連行　同　丸　一月十日
大連行　同　丸　一月十一日
大連行　同　丸　一月十二日
大連行　同　丸　一月十三日
大連行　同　丸　一月十四日
大連行　同　丸　一月十五日
大連行　同　丸　一月十六日
大連行　同　丸　一月十七日
大連行　同　丸　一月十八日
大連行　同　丸　一月十九日
大連行　同　丸　一月二十日
大連行　同　丸　一月二十一日
大連行　同　丸　一月二十二日
大連行　同　丸　一月二十三日
大連行　同　丸　一月二十四日
大連行　同　丸　一月二十五日
大連行　同　丸　一月二十六日
大連行　同　丸　一月二十七日
大連行　同　丸　一月二十八日
大連行　同　丸　一月二十九日
大連行　同　丸　一月三十日
大連行　同　丸　一月三十一日
大連行　同　丸　二月一日
大連行　同　丸　二月二日
大連行　同　丸　二月三日
大連行　同　丸　二月四日
大連行　同　丸　二月五日
大連行　同　丸　二月六日
大連行　同　丸　二月七日
大連行　同　丸　二月八日
大連行　同　丸　二月九日
大連行　同　丸　二月十日
大連行　同　丸　二月十一日
大連行　同　丸　二月十二日
大連行　同　丸　二月十三日
大連行　同　丸　二月十四日
大連行　同　丸　二月十五日
大連行　同　丸　二月十六日
大連行　同　丸　二月十七日
大連行　同　丸　二月十八日
大連行　同　丸　二月十九日
大連行　同　丸　二月二十日
大連行　同　丸　二月二十一日
大連行　同　丸　二月二十二日
大連行　同　丸　二月二十三日
大連行　同　丸　二月二十四日
大連行　同　丸　二月二十五日
大連行　同　丸　二月二十六日
大連行　同　丸　二月二十七日
大連行　同　丸　二月二十八日
大連行　同　丸　二月二十九日
大連行　同　丸　三月一日
大連行　同　丸　三月二日
大連行　同　丸　三月三日
大連行　同　丸　三月四日
大連行　同　丸　三月五日
大連行　同　丸　三月六日
大連行　同　丸　三月七日
大連行　同　丸　三月八日
大連行　同　丸　三月九日
大連行　同　丸　三月十日
大連行　同　丸　三月十一日
大連行　同　丸　三月十二日
大連行　同　丸　三月十三日
大連行　同　丸　三月十四日
大連行　同　丸　三月十五日
大連行　同　丸　三月十六日
大連行　同　丸　三月十七日
大連行　同　丸　三月十八日
大連行　同　丸　三月十九日
大連行　同　丸　三月二十日
大連行　同　丸　三月二十一日
大連行　同　丸　三月二十二日
大連行　同　丸　三月二十三日
大連行　同　丸　三月二十四日
大連行　同　丸　三月二十五日
大連行　同　丸　三月二十六日
大連行　同　丸　三月二十七日
大連行　同　丸　三月二十八日
大連行　同　丸　三月二十九日
大連行　同　丸　三月三十日
大連行　同　丸　三月三十一日
大連行　同　丸　四月一日
大連行　同　丸　四月二日
大連行　同　丸　四月三日
大連行　同　丸　四月四日
大連行　同　丸　四月五日
大連行　同　丸　四月六日
大連行　同　丸　四月七日
大連行　同　丸　四月八日
大連行　同　丸　四月九日
大連行　同　丸　四月十日
大連行　同　丸　四月十一日
大連行　同　丸　四月十二日
大連行　同　丸　四月十三日
大連行　同　丸　四月十四日
大連行　同　丸　四月十五日
大連行　同　丸　四月十六日
大連行　同　丸　四月十七日
大連行　同　丸　四月十八日
大連行　同　丸　四月十九日
大連行　同　丸　四月二十日
大連行　同　丸　四月二十一日
大連行　同　丸　四月二十二日
大連行　同　丸　四月二十三日
大連行　同　丸　四月二十四日
大連行　同　丸　四月二十五日
大連行　同　丸　四月二十六日
大連行　同　丸　四月二十七日
大連行　同　丸　四月二十八日
大連行　同　丸　四月二十九日
大連行　同　丸　四月三十日
大連行　同　丸　五月一日
大連行　同　丸　五月二日
大連行　同　丸　五月三日
大連行　同　丸　五月四日
大連行　同　丸　五月五日
大連行　同　丸　五月六日
大連行　同　丸　五月七日
大連行　同　丸　五月八日
大連行　同　丸　五月九日
大連行　同　丸　五月十日
大連行　同　丸　五月十一日
大連行　同　丸　五月十二日
大連行　同　丸　五月十三日
大連行　同　丸　五月十四日
大連行　同　丸　五月十五日
大連行　同　丸　五月十六日
大連行　同　丸　五月十七日
大連行　同　丸　五月十八日
大連行　同　丸　五月十九日
大連行　同　丸　五月二十日
大連行　同　丸　五月二十一日
大連行　同　丸　五月二十二日
大連行　同　丸　五月二十三日
大連行　同　丸　五月二十四日
大連行　同　丸　五月二十五日
大連行　同　丸　五月二十六日
大連行　同　丸　五月二十七日
大連行　同　丸　五月二十八日
大連行　同　丸　五月二十九日
大連行　同　丸　五月三十日
大連行　同　丸　五月三十一日
大連行　同　丸　六月一日
大連行　同　丸　六月二日
大連行　同　丸　六月三日
大連行　同　丸　六月四日
大連行　同　丸　六月五日
大連行　同　丸　六月六日
大連行　同　丸　六月七日
大連行　同　丸　六月八日
大連行　同　丸　六月九日
大連行　同　丸　六月十日
大連行　同　丸　六月十一日
大連行　同　丸　六月十二日
大連行　同　丸　六月十三日
大連行　同　丸　六月十四日
大連行　同　丸　六月十五日
大連行　同　丸　六月十六日
大連行　同　丸　六月十七日
大連行　同　丸　六月十八日
大連行　同　丸　六月十九日
大連行　同　丸　六月二十日
大連行　同　丸　六月二十一日
大連行　同　丸　六月二十二日
大連行　同　丸　六月二十三日
大連行　同　丸　六月二十四日
大連行　同　丸　六月二十五日
大連行　同　丸　六月二十六日
大連行　同　丸　六月二十七日
大連行　同　丸　六月二十八日
大連行　同　丸　六月二十九日
大連行　同　丸　六月三十日
大連行　同　丸　七月一日
大連行　同　丸　七月二日
大連行　同　丸　七月三日
大連行　同　丸　七月四日
大連行　同　丸　七月五日
大連行　同　丸　七月六日
大連行　同　丸　七月七日
大連行　同　丸　七月八日
大連行　同　丸　七月九日
大連行　同　丸　七月十日
大連行　同　丸　七月十一日
大連行　同　丸　七月十二日
大連行　同　丸　七月十三日
大連行　同　丸　七月十四日
大連行　同　丸　七月十五日
大連行　同　丸　七月十六日
大連行　同　丸　七月十七日
大連行　同　丸　七月十八日
大連行　同　丸　七月十九日
大連行　同　丸　七月二十日
大連行　同　丸　七月二十一日
大連行　同　丸　七月二十二日
大連行　同　丸　七月二十三日
大連行　同　丸　七月二十四日
大連行　同　丸　七月二十五日
大連行　同　丸　七月二十六日
大連行　同　丸　七月二十七日
大連行　同　丸　七月二十八日
大連行　同　丸　七月二十九日
大連行　同　丸　七月三十日
大連行　同　丸　七月三十一日
大連行　同　丸　八月一日
大連行　同　丸　八月二日
大連行　同　丸　八月三日
大連行　同　丸　八月四日
大連行　同　丸　八月五日
大連行　同　丸　八月六日
大連行　同　丸　八月七日
大連行　同　丸　八月八日
大連行　同　丸　八月九日
大連行　同　丸　八月十日
大連行　同　丸　八月十一日
大連行　同　丸　八月十二日
大連行　同　丸　八月十三日
大連行　同　丸　八月十四日
大連行　同　丸　八月十五日
大連行　同　丸　八月十六日
大連行　同　丸　八月十七日
大連行　同　丸　八月十八日
大連行　同　丸　八月十九日
大連行　同　丸　八月二十日
大連行　同　丸　八月二十一日
大連行　同　丸　八月二十二日
大連行　同　丸　八月二十三日
大連行　同　丸　八月二十四日
大連行　同　丸　八月二十五日
大連行　同　丸　八月二十六日
大連行　同　丸　八月二十七日
大連行　同　丸　八月二十八日
大連行　同　丸　八月二十九日
大連行　同　丸　八月三十日
大連行　同　丸　八月三十一日
大連行　同　丸　九月一日
大連行　同　丸　九月二日
大連行　同　丸　九月三日
大連行　同　丸　九月四日
大連行　同　丸　九月五日
大連行　同　丸　九月六日
大連行　同　丸　九月七日
大連行　同　丸　九月八日
大連行　同　丸　九月九日
大連行　同　丸　九月十日
大連行　同　丸　九月十一日
大連行　同　丸　九月十二日
大連行　同　丸　九月十三日
大連行　同　丸　九月十四日
大連行　同　丸　九月十五日
大連行　同　丸　九月十六日
大連行　同　丸　九月十七日
大連行　同　丸　九月十八日
大連行　同　丸　九月十九日
大連行　同　丸　九月二十日
大連行　同　丸　九月二十一日
大連行　同　丸　九月二十二日
大連行　同　丸　九月二十三日
大連行　同　丸　九月二十四日
大連行　同　丸　九月二十五日
大連行　同　丸　九月二十六日
大連行　同　丸　九月二十七日
大連行　同　丸　九月二十八日
大連行　同　丸　九月二十九日
大連行　同　丸　九月三十日
大連行　同　丸　十月一日
大連行　同　丸　十月二日
大連行　同　丸　十月三日
大連行　同　丸　十月四日
大連行　同　丸　十月五日
大連行　同　丸　十月六日
大連行　同　丸　十月七日
大連行　同　丸　十月八日
大連行　同　丸　十月九日
大連行　同　丸　十月十日
大連行　同　丸　十月十一日
大連行　同　丸　十月十二日
大連行　同　丸　十月十三日
大連行　同　丸　十月十四日
大連行　同　丸　十月十五日
大連行　同　丸　十月十六日
大連行　同　丸　十月十七日
大連行　同　丸　十月十八日
大連行　同　丸　十月十九日
大連行　同　丸　十月二十日
大連行　同　丸　十月二十一日
大連行　同　丸　十月二十二日
大連行　同　丸　十月二十三日
大連行　同　丸　十月二十四日
大連行　同　丸　十月二十五日
大連行　同　丸　十月二十六日
大連行　同　丸　十月二十七日
大連行　同　丸　十月二十八日
大連行　同　丸　十月二十九日
大連行　同　丸　十月三十日
大連行　同　丸　十月三十一日
大連行　同　丸　十一月一日
大連行　同　丸　十一月二日
大連行　同　丸　十一月三日
大連行　同　丸　十一月四日
大連行　同　丸　十一月五日
大連行　同　丸　十一月六日
大連行　同　丸　十一月七日
大連行　同　丸　十一月八日
大連行　同　丸　十一月九日
大連行　同　丸　十一月十日
大連行　同　丸　十一月十一日
大連行　同　丸　十一月十二日
大連行　同　丸　十一月十三日
大連行　同　丸　十一月十四日
大連行　同　丸　十一月十五日
大連行　同　丸　十一月十六日
大連行　同　丸　十一月十七日
大連行　同　丸　十一月十八日
大連行　同　丸　十一月十九日
大連行　同　丸　十一月二十日
大連行　同　丸　十一月二十一日
大連行　同　丸　十一月二十二日
大連行　同　丸　十一月二十三日
大連行　同　丸　十一月二十四日
大連行　同　丸　十一月二十五日
大連行　同　丸　十一月二十六日
大連行　同　丸　十一月二十七日
大連行　同　丸　十一月二十八日
大連行　同　丸　十一月二十九日
大連行　同　丸　十一月三十日
大連行　同　丸　十二月一日
大連行　同　丸　十二月二日
大連行　同　丸　十二月三日
大連行　同　丸　十二月四日
大連行　同　丸　十二月五日
大連行　同　丸　十二月六日
大連行　同　丸　十二月七日
大連行　同　丸　十二月八日
大連行　同　丸　十二月九日
大連行　同　丸　十二月十日
大連行　同　丸　十二月十一日
大連行　同　丸　十二月十二日
大連行　同　丸　十二月十三日
大連行　同　丸　十二月十四日
大連行　同　丸　十二月十五日
大連行　同　丸　十二月十六日
大連行　同　丸　十二月十七日
大連行　同　丸　十二月十八日
大連行　同　丸　十二月十九日
大連行　同　丸　十二月二十日
大連行　同　丸　十二月二十一日
大連行　同　丸　十二月二十二日
大連行　同　丸　十二月二十三日
大連行　同　丸　十二月二十四日
大連行　同　丸　十二月二十五日
大連行　同　丸　十二月二十六日
大連行　同　丸　十二月二十七日
大連行　同　丸　十二月二十八日
大連行　同　丸　十二月二十九日
大連行　同　丸　十二月三十日
大連行　同　丸　十二月三十一日
大連行　同　丸　一月一日
大連行　同　丸　一月二日
大連行　同　丸　一月三日
大連行　同　丸　一月四日
大連行　同　丸　一月五日
大連行　同　丸　一月六日
大連行　同　丸　一月七日
大連行　同　丸　一月八日
大連行　同　丸　一月九日
大連行　同　丸　一月十日
大連行　同　丸　一月十一日
大連行　同　丸　一月十二日
大連行　同　丸　一月十三日
大連行　同　丸　一月十四日
大連行　同　丸　一月十五日
大連行　同　丸　一月十六日
大連行　同　丸　一月十七日
大連行　同　丸　一月十八日
大連行　同　丸　一月十九日
大連行　同　丸　一月二十日
大連行　同　丸　一月二十一日
大連行　同　丸　一月二十二日
大連行　同　丸　一月二十三日
大連行　同　丸　一月二十四日
大連行　同　丸　一月二十五日
大連行　同　丸　一月二十六日
大連行　同　丸　一月二十七日
大連行　同　丸　一月二十八日
大連行　同　丸　一月二十九日
大連行　同　丸　一月三十日
大連行　同　丸　一月三十一日
大連行　同　丸　二月一日
大連行　同　丸　二月二日
大連行　同　丸　二月三日
大連行　同　丸　二月四日
大連行　同　丸　二月五日
大連行　同　丸　二月六日
大連行　同　丸　二月七日
大連行　同　丸　二月八日
大連行　同　丸　二月九日
大連行　同　丸　二月十日
大連行　同　丸　二月十一日
大連行　同　丸　二月十二日
大連行　同　丸　二月十三日
大連行　同　丸　二月十四日
大連行　同　丸　二月十五日
大連行　同　丸　二月十六日
大連行　同　丸　二月十七日
大連行　同　丸　二月十八日
大連行　同　丸　二月十九日
大連行　同　丸　二月二十日
大連行　同　丸　二月二十一日
大連行　同　丸　二月二十二日
大連行　同　丸　二月二十三日
大連行　同　丸　二月二十四日
大連行　同　丸　二月二十五日
大連行　同　丸　二月二十六日
大連行　同　丸　二月二十七日
大連行　同　丸　二月二十八日
大連行　同　丸　二月二十九日
大連行　同　丸　三月一日
大連行　同　丸　三月二日
大連行　同　丸　三月三日
大連行　同　丸　三月四日
大連行　同　丸　三月五日
大連行　同　丸　三月六日
大連行　同　丸　三月七日
大連行　同　丸　三月八日
大連行　同　丸　三月九日
大連行　同　丸　三月十日
大連行　同　丸　三月十一日
大連行　同　丸　三月十二日
大連行　同　丸　三月十三日
大連行　同　丸　三月十四日
大連行　同　丸　三月十五日
大連行　同　丸　三月十六日
大連行　同　丸　三月十七日
大連行　同　丸　三月十八日
大連行　同　丸　三月十九日
大連行　同　丸　三月二十日
大連行　同　丸　三月二十一日
大連行　同　丸　三月二十二日
大連行　同　丸　三月二十三日
大連行　同　丸　三月二十四日
大連行　同　丸　三月二十五日
大連行　同　丸　三月二十六日
大連行　同　丸　三月二十七日
大連行　同　丸　三月二十八日
大連行　同　丸　三月二十九日
大連行　同　丸　三月三十日
大連行　同　丸　三月三十一日
大連行　同　丸　四月一日
大連行　同　丸　四月二日
大連行　同　丸　四月三日
大連行　同　丸　四月四日
大連行　同　丸　四月五日
大連行　同　丸　四月六日
大連行　同　丸　四月七日
大連行　同　丸　四月八日
大連行　同　丸　四月九日
大連行　同　丸　四月十日
大連行　同　丸　四月十一日
大連行　同　丸　四月十二日
大連行　同　丸　四月十三日
大連行　同　丸　四月十四日
大連行　同　丸　四月十五日
大連行　同　丸　四月十六日
大連行　同　丸　四月十七日
大連行　同　丸　四月十八日
大連行　同　丸　四月十九日
大連行　同　丸　四月二十日
大連行　同　丸　四月二十一日
大連行　同　丸　四月二十二日
大連行　同　丸　四月二十三日
大連行　同　丸　四月二十四日
大連行　同　丸　四月二十五日
大連行　同　丸　四月二十六日
大連行　同　丸　四月二十七日
大連行　同　丸　四月二十八日
大連行　同　丸　四月二十九日
大連行　同　丸　四月三十日
大連行　同　丸　五月一日
大連行　同　丸　五月二日
大連行　同　丸　五月三日
大連行　同　丸　五月四日
大連行　同　丸　五月五日
大連行　同　丸　五月六日
大連行　同　丸　五月七日
大連行　同　丸　五月八日
大連行　同　丸　五月九日
大連行　同　丸　五月十日
大連行　同　丸　五月十一日
大連行　同　丸　五月十二日
大連行　同　丸　五月十三日
大連行　同　丸　五月十四日
大連行　同　丸　五月十五日
大連行　同　丸　五月十六日
大連行　同　丸　五月十七日
大連行　同　丸　五月十八日
大連行　同　丸　五月十九日
大連行　同　丸　五月二十日
大連行　同　丸　五月二十一日
大連行　同　丸　五月二十二日
大連行　同　丸　五月二十三日
大連行　同　丸　五月二十四日
大連行　同　丸　五月二十五日
大連行　同　丸　五月二十六日
大連行　同　丸　五月二十七日
大連行　同　丸　五月二十八日
大連行　同　丸　五月二十九日
大連行　同　丸　五月三十日
大連行　同　丸　五月三十一日
大連行　同　丸　六月一日
大連行　同　丸　六月二日
大連行　同　丸　六月三日
大連行　同　丸　六月四日
大連行　同　丸　六月五日
大連行　同　丸　六月六日
大連行　同　丸　六月七日
大連行　同　丸　六月八日
大連行　同　丸　六月九日
大連行　同　丸　六月十日
大連行　同　丸　六月十一日
大連行　同　丸　六月十二日
大連行　同　丸　六月十三日
大連行　同　丸　六月十四日
大連行　同　丸　六月十五日
大連行　同　丸　六月十六日
大連行　同　丸　六月十七日
大連行　同　丸　六月十八日
大連行　同　丸　六月十九日
大連行　同　丸　六月二十日
大連行　同　丸　六月二十一日
大連行　同　丸　六月二十二日
大連行　同　丸　六月二十三日
大連行　同　丸　六月二十四日
大連行　同　丸　六月二十五日
大連行　同　丸　六月二十六日
大連行　同　丸　六月二十七日
大連行　同　丸　六月二十八日
大連行　同　丸　六月二十九日
大連行　同　丸　六月三十日
大連行　同　丸　七月一日
大連行　同　丸　七月二日
大連行　同　丸　七月三日
大連行　同　丸　七月四日
大連行　同　丸　七月五日
大連行　同　丸　七月六日
大連行　同　丸　七月七日
大連行　同　丸　七月八日
大連行　同　丸　七月九日
大連行　同　丸　七月十日
大連行　同　丸　七月十一日
大連行　同　丸　七月十二日
大連行　同　丸　七月十三日
大連行　同　丸　七月十四日
大連行　同　丸　七月十五日
大連行　同　丸　七月十六日
大連行　同　丸　七月十七日
大連行　同　丸　七月十八日
大連行　同　丸　七月十九日
大連行　同　丸　七月二十日
大連行　同　丸　七月二十一日
大連行　同　丸　七月二十二日
大連行　同　丸　七月二十三日
大連行　同　丸　七月二十四日
大連行　同　丸　七月二十五日
大連行　同　丸　七月二十六日
大連行　同　丸　七月二十七日
大連行　同　丸　七月二十八日
大連行　同　丸　七月二十九日
大連行　同　丸　七月三十日
大連行　同　丸　七月三十一日
大連行　同　丸　八月一日
大連行　同　丸　八月二日
大連行　同　丸　八月三日
大連行　同　丸　八月四日
大連行　同　丸　八月五日
大連行　同　丸　八月六日
大連行　同　丸　八月七日
大連行　同　丸　八月八日
大連行　同　丸　八月九日
大連行　同　丸　八月十日
大連行　同　丸　八月十一日
大連行　同　丸　八月十二日
大連行　同　丸　八月十三日
大連行　同　丸　八月十四日
大連行　同　丸　八月十五日
大連行　同　丸　八月十六日
大連行　同　丸　八月十七日
大連行　同　丸　八月十八日
大連行　同　丸　八月十九日
大連行　同　丸　八月二十日
大連行　同　丸　八月二十一日
大連行　同　丸　八月二十二日
大連行　同　丸　八月二十三日
大連行　同　丸　八月二十四日
大連行　同　丸　八月二十五日
大連行　同　丸　八月二十六日
大連行　同　丸　八月二十七日
大連行　同　丸　八月二十八日
大連行　同　丸　八月二十九日
大連行　同　丸　八月三十日
大連行　同　丸　八月三十一日
大連行　同　丸　九月一日
大連行　同　丸　九月二日
大連行　同　丸　九月三日
大連行　同　丸　九月四日
大連行　同　丸　九月五日
大連行　同　丸　九月六日
大連行　同　丸　九月七日
大連行　同　丸　九月八日
大連行　同　丸　九月九日
大連行　同　丸　九月十日
大連行　同　丸　九月十一日
大連行　同　丸　九月十二日
大連行　同　丸　九月十三日
大連行　同　丸　九月十四日
大連行　同　丸　九月十五日
大連行　同　丸　九月十六日
大連行　同　丸　九月十七日
大連行　同　丸　九月十八日
大連行　同　丸　九月十九日
大連行　同　丸　九月二十日
大連行　同　丸　九月二十一日
大連行　同　丸　九月二十二日
大連行　同　丸　九月二十三日
大連行　同　丸　九月二十四日
大連行　同　丸　九月二十五日
大連行　同　丸　九月二十六日
大連行　同　丸　九月二十七日
大連行　同　丸　九月二十八日
大連行　同　丸　九月二十九日
大連行　同　丸　九月三十日
大連行　同　丸　十月一日
大連行　同　丸　十月二日
大連行　同　丸　十月三日
大連行　同　丸　十月四日
大連行　同　丸　十月五日
大連行　同　丸　十月六日
大連行　同　丸　十月七日
大連行　同　丸　十月八日
大連行　同　丸　十月九日
大連行　同　丸　十月十日
大連行　同　丸　十月十一日
大連行　同　丸　十月十二日
大連行　同　丸　十月十三日
大連行　同　丸　十月十四日
大連行　同　丸　十月十五日
大連行　同　丸　十月十六日
大連行　同　丸　十月十七日
大連行　同　丸　十月十八日
大連行　同　丸　十月十九日
大連行　同　丸　十月二十日

（二）

## 活力ある人物の養成
### 現在の學校教育は駄目

一　今ものの革新と叫ばるゝに際し、人間を作り人物を養成する教育方針ものみだけが、時勢から取り殘されるべきものではあるまい。殊に況んや、眞の人物、眞の人間が社會に擡頭を待ち望まれる現在此の際をやである。事實、今の時代、社會は、偉大な指導者の出現を待つである。此の時代に處し、この社會を救ふ偉人が實に待ち望まれて居る人物の養成である。個人の個性、最も發揮せらるる學校を引き出して育てゝ行くのが教育の本旨といふ點に鑑みれば、現教育の本態はゾレである。如何に形式的に學校で、又如何に學校で個人の個性に見合つても、個々の個性の中には少なくとも一つは他に優れ秀でゝ居る點がある。それを發見して育てゝ行くのが其人物を眞に活し、國家に盡さしむる唯一の途である。

二　人物を作り人物を養成上に最も注意しなくてはならぬ事は、第一に個性の中、最も長所である。もう一歩進んでいふと、短所は棄てゝ長所を伸ばすといふ點である。個人の個性に、最も適してゐる長所を引き出して育てゝ行くのが教育の本旨といふ點に鑑みれば、現教育の本態はゾレである。如何に形式的に學校で、又如何に學校で個人の個性に見合つても、個々の個性の中には少なくとも一つは他に優れ秀でゝ居る點がある。それを發見して育てゝ行くのが其人物を眞に活し、國家に盡さしむる唯一の途である。

三　しかし斯いふ意味の教育ならば、現在は一寸できぬ訳ではない。何となれば、何十人かの兒童を先生を二つの教室に入れて、一定の教材の下に一齊に教育して行くから、少數の教師が擔當つた個性に對しては效果少く、個性に應じた教育で行くのが其人物を眞に活し、國家に盡さしむる唯一の途である。

## 研究會の舊勢力が 範圍擴大を提唱

### 實は今特別議會で 通過阻止の底意か

### 研究會の小委員決定

【東京二十二日發】貴族院改革に關する調査研究會は二十二日午前十時より第一回總會を開き、研究會の内部協議會の經過を報告し、次で小委員會を設け、研究會協議員會で建議案を作成することに決定した。

【東京二十二日發】貴族院改革に關する調査研究會は二十二日午前十時より第一回總會を開き、研究會の内部協議會の經過を報告し、次で小委員會を設け、研究會協議員會で建議案を作成することに決定した。

## 貴族院改革に一波紋！

### 小委員會を設け 建議案を作成

### 研究會協議員會で

【東京二十二日發】貴族院改革に關する調査研究會は二十二日午前十時より第一回總會を開き、研究會の内部協議會の經過を報告し、次で小委員會を設け、研究會協議員會で建議案を作成することに決定した。

【東京二十二日發】貴族院改革に關する調査研究會は二十二日午前十時より第一回總會を開き、研究會の内部協議會の經過を報告し、次で小委員會を設け、研究會協議員會で建議案を作成することに決定した。

## 一二六事件に關して 眞摯な問答行はれん

### 事件全貌は秘密會で報告か

【東京二十二日發】廣田首相、福田顧問官を招待

【東京二十二日發】廣田首相は二十二日正午官邸に福田顧問官を招待、午餐を共にしながら、非正規軍問題以下各般の問題に關し意見を交換した。

## ソ支秘密協定が 西北協定が基礎

### 中國共產黨の最高指導者 南京政府との間

## 危ない足つき

## 伊の輸出入は 何れも激減

### 制裁の效果徐々に現はる

## 特別會議

【ゼネバ二十一日發同盟】聯盟理事會は二十一日午後三時より開會、伊國制裁問題を討議したが、英國代表イーデン外相は、制裁の效果は漸次現はれつゝあるが、制裁を解除するの時期は未だ來らずと述べ、ブルッチ伊代表は、制裁は伊國民の團結を强化するのみであると反駁した。

【ロンドン二十一日發同盟】倫敦の英國大藏大臣の演說は二十一日午後二時三十三分から下院に於て行はれたが、豫想せる國際情勢から國防の充實を餘儀なくされてゐる折柄、增稅問題が伴つて重大關心の焦點となつた點があり、演說要旨は左の如し

一、一九三六、七年度の支出總額は七億九千七百八十九萬七千磅で、收入七億九千八百三十八萬二千磅である。國防費は國際情勢の逼迫の結果昨年度に比し大千四百萬磅の增加を示してゐる

一、右支出の增大を賄ふ爲收入の增加を決した。但し一部收入に依る增加は到底國防費の增加を全部賄ひ得ない從つて國防費の大部分は公債に依存せざるべからず

一、公債は二千六百萬磅を以て發行し、殘額は一千萬磅は一般に公募し、殘額は國庫證券を以て發行する

一、所得稅を二磅に付二シリング引上げ

一、茶稅を一封度に付二シリング引上げ

一、輸入ビール稅引上げ

## 伊の輕巡洋艦と 驅逐艦進水式

【スペチア二十一日發電通】軍港スペチアに於ける伊國海軍造船廠ブカ・デリ・アブルッチ號の進水式は二十一日擧行せられた。

【トリエスト二十一日發電通】驅逐艦ガリ・ベルデー號の進水式は二十一日トリエスト市建造所に於て擧行せられた

## 警察部長更迭

### 總務部長と本日發令

### 二十四日發

## 安保臺北辯護士會長 辭任を決意

### 後任問題注目

## 督府辭令（二十二日附）

▲彭朝勳長　▲陳元　▲許吉

## 英國の新豫算は 內外の重大關心

### 國防費の充實や增稅等 藏相が豫算案を說明

【東京廿二日發】對議會策を 陸軍首腦部協議

きのふ陸相、次官ら參集

【東京二十二日發】衆議院の各派交涉會 二十七日開く

【東京二十二日發】海軍出身議員を 海相が招待

【東京二十二日發】對議會策を 陸軍首腦部協議

きのふ陸相、次官ら參集

【東京二十二日發】衆議院の各派交涉會 二十七日開く

## 日ソ漁業交涉 近く再開せん

### 全面的に展開を見ん

## 勅選の補充 廿八日の閣議へ

### 閣僚間で諒解工作中

## 植田司令官 ハルビンへ

## 近藤勸銀支店長 本店へ榮轉

### 後任は宮澤源吉氏 理事に昇格して來任

## 滿洲鹽業會社を設立

### 資本金五百萬圓

## 土政府要求の 妥當性を確認

### 廿四日の閣議に附議 近く正式に回答せん

## 宮澤氏略歷

## 吉野丸よりり

菊正宗
本嘉納商店
代理店 藤田商店
劍・肩章
威儀を正して・天長節を
荒井商店
花柳病科 皮膚泌尿器科 大東病院
南門藥局
主催 南門藥局
參用の賴母……へ客樣へ謝恩特賣
日支印刷取扱店
"大世界・新世界"共通券
◉月虎印蚊とり線香
◉金壹圓也で面白い映畫が……

# ソ聯がシベリアで人造樟腦製造に著手

## 既に英國へは十五瓲の製品輸出

## 安閑を許さぬ臺灣

ソビエト露西亞は大小都市の如何を問はず、その經濟的發展に關しては、常に五箇年計畫を樹てゝ、その實現に努力しつゝあり、殊に最近では重點を農業から移して、工業の發展に力を注いでゐるが、又もや人造樟腦製造の試驗所を設け、樟腦の製出に成功したとのニュースが二月初旬露西亞北方の都市ペルミ（Perm）から發表されるや、ソビエト政府から發表されるやターペンタイン（松脂）から樟腦を製造することに關し此處に試驗所を設けて製造に成功したのである。その製品は非常に優秀で眞正のそれにも劣らないことが證明し、一時に名聲を博したと云ふ事である。之に力を得たソ聯は本年度に於ては大規模に製造を企圖し、國内の樟腦需要額を充たした上に、更に力を入れて外國にも輸出すべく、着々その準備に進めることゝなつた

### 英國の茶消費
### 俄然激增を示す
### 臺灣茶の進出目覺し

【ロンドン二十一日發國際】英國に於ける茶輸出關係の最近の統計によれば、英國に於ける茶の消費高は著しく增加されてゐるが、二十一日カーサック商會より發表された三月中の倫敦に於ける輸入高並に賣渡高は左の如くである。即ち右統計に依ると、印度茶輸入高は前年同期に比べ約一千萬封の增加を示し、又錫蘭茶の輸入高は前年同期に比べ約五百萬封の增加を示してゐるが、之に反し支那茶の輸入高は前年同期に比べ約一千萬封の減少を示してゐる。尚ほ右統計に於ける臺灣茶の輸入高は前年同期に比べ僅に一萬封の增加を示すに過ぎない

### 英國政府
### 茶關稅の引上發表
### 一封度四片を六片に……
### 臺灣茶にも打擊

【倫敦二十一日發國際】英國政府は從來輸出茶の一封度に付一片の關稅を徵收してゐたが、今回英國政府は從來輸出茶の關稅を二片に引上げ、一封度四片を六片に引上げる事に決定した。之が實施は來る五月一日からである。尚ほ今回の關稅引上げに依り、臺灣茶にも相當の打擊を與へるものと見られてゐる

### 中甸貿易
### 輸出入共不振

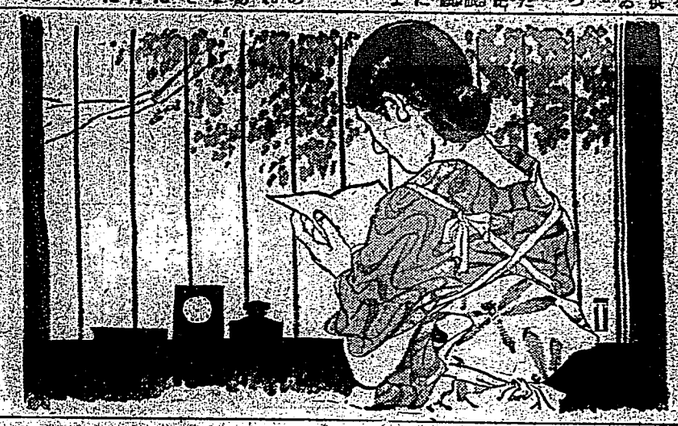
【臨安二十日發電】中甸貿易は八月以來不振を續けてゐるが、本年一月中の貿易額は左の如く、輸出入共に前年同期に比べ減少してゐる。輸入額の減少は主として雲南の大部分が旱魃の爲め米穀の收穫が減少したことに基因してゐるが、輸出

# 街に散る花

(126)

竹田敏彦作

寺本忠雄畫



母と子（6）

春里は一日でほっとしたが、翌日は一層不機嫌へをそこができなかった。手紙の除――彼女な眠らず待ってるだが、昨日切つて出すんだったんだって、お母さんがにくらしげるわ。でも、もう眠れるんだから、早く寝て、明日よ。北條の眠の夜、眠れないわ。ねえお卿ひとやすんさうと一緒にね、長所がいくも言つてよ民謡とも眠してるわ。さうと。

記子

春里の郷に春さらでる。北條の眠の夜――それはらの出來物に相違ない。あれは、眠眠かつてくれた可愛な祖母の死の夜、あの手は眠の夜で女友達と、何んな一夜を明かしたのだらうそれから民助といふ青年をつひ深夜の湖畔の眠にあの事に觸れない――

「眠、そうのない不安が胸に突然に春里の胸性は落ちく〜と浸した（さは、眠眠しなければ……）

ちと手紙を利用に渡した時、眠眠いて、春男が入つてきた。眠章つて眠眠に手紙、仕舞つた世の手節を見るなり

「眠見よ、世さん」

「眠い眠眠で、眠眠と眠とブつたが、手紙は眠眠にも、その地子に眠の眠から愛のへ眠かり寄つた。春男は眠いで身ひとつたが、眠めるやうな春里の眠を

「世さんの手紙」

眠い眠眠で、春里を眠眠した

「何か眠眠でよ」

「それ眠、お眠眠の眠眠の眠眠を眠眠（なにこそ）です」

春里は心から言つたが、迫つ



春里は涙を掌でこらへて眠の

「眠世でよ、ごうと人の手紙を眠むなんか卿士的じゃないです」

「さうかい……」

春男は眠眠し、静かに杏へ

「しかじねな春男、世さんはお卿の眠ですよ。眠はそ眠眠する眠

なかつたが、別に二人には、眠し

てくる眠の眠で

（これ眠、世さんから眠はれた言葉だつた）

ふとに眠くと、世かれた眠

が眠れた。

春男は涙くんだ世を見ると、何も言はずに手眠すために眠つて、眠に眠つたまま眠眠に眠屋

を出ていつた。

その後春里は涙を眠らなかつたが、別に二人には、眠し

い眠しい眠眠はなかつた。

そのうちに眠の春男が眠まうた。眠眠の眠の花に過ぎなかつたのだ――春里はさう考へてほつとするのだつた。

秋の午後だつた。春里は、眠眠の眠眠眠取りに行つて眠り遂、帰り眠かが午後だつたのでひとり少しいそがしくたつて、牛込見付から市ヶ谷眠行の方へ、眠眠の折を歩いてゐた。土手の木立が美眠の日眠が、秋の日射に美しく輝くに、濠山な男女がボートを浮かべて、楽しげに漕ぎ合つてゐた。ふとその中の一眠のボートを見て、思はず眠眠の眠と眠つた。そこには、春男と美眠子の外に同じ年頃の男女の学生が二人交つてゐるではないか。

その眠だつた。春里は家眠らも眠めて、一緒に夕眠を食べてゐると

「おお世さま、私、ダンスが眠ひたい」

美眠美眠子が言ひ出した。

## 午前の部

【六・三〇】眠の挨拶、ラヂオ體操

今日のお天氣のお知らせ―東北眠眠所眠表

【七・一〇】全國気象通報（東京）

【八・〇〇】眠眠メモ（東京）

【九・〇〇】家庭百科（東京）

△眠年の眠旬については眠年の眠旬のお眠びの眠返しはするものでせうか△ナーデン眠眠の調理法

【一〇・〇一】家庭料理（東京）△眠花女子眠眠眠眠眠代表）△眠もうライス△ポモ、玉子の眠和眠

【一一・〇〇】日用品の眠眠（各眠）△眠眠紹介（東京）△午

## 午後の部

【一二・五九】正午の時報　気象通報―東北眠眠所眠表

【〇・〇〇】株式眠眠ニュース

【〇・五〇】眠眠市況に眠いて

内眠眠眠眠人眠眠状況及眠眠列車時刻のお知らせ・眠眠部運輪眠眠表

【一・四〇】全國気象通報（東京）

【五・〇〇】子供の時間（大阪）

【五・一〇】眠眠ダンスの眠人（眠眠眠）

【五・二五】眠眠眠眠（東京）

【五・三五】カレントトピックス（東京）

## 夜間の部

【六・〇〇】子供の時間（眠北）

【六・二〇】眠演（東京）

【六・三〇】講演（東京）

日本眠眠―大眠眠博士市山久四郎

【七・〇〇】講演と眠眠眠（東京）

眠眠眠眠（眠眠フィガロの結婚）序曲モーツアルト作曲　外三

【自七・三〇至八・二八】寄席中継（東京△眠眠）一、落語　眠眠：卵

眠眠眠眠　二、眠眠眠　眠眠：三遊亭圓生

四、素人之部　春里亭眠眠

【八・三〇】眠眠（東京）

【八・三一】眠眠眠眠（眠北）尺八　水原秋山、箏　水原秋雄　一、春の夜（眠眠眠眠作曲）二、箏の調（久本玄智作曲）

【八・五五】眠眠眠眠（眠北）愛子之介、演唱矢崎、岡田妖、伴奏眠眠、眠明、岡三桂、九条、岡之助、眠明

【九・一〇】眠眠眠眠―眠北眠眠所眠眠眠眠ニュース（各局）公会眠告　眠眠眠（各局）明日のプログラム眠眠（各眠）

## 身の上相談

相談申もなく眠眠に眠る眠眠眠眠の眠眠眠眠眠

# 金塊密輸出を共謀し 七十圓を巧みに詐取

## 仕組んだ偽計が暴露して 留置取調べらる

【高雄電話】高雄市前金町一丁目一番地、林秀雄（三十）は、昨年十月頃、高雄市内の某氏に対し、「自分は台湾銀行の行員と懇意であるから、金塊を内地へ密輸出すれば、相当の利益がある」と甘言を弄して、七十圓を詐取したが、その後、金塊の密輸出が容易に出来ないので、詐取した七十圓を返還しようとしたが、既に遊興費に費消してしまったので、返還することが出来ず、遂に詐欺罪として、高雄署に留置取調べられている。

# 日の出村煙草移民 試練を見事突破

## 今年の成績頗る良好

【台東電話】曾根台東庁の移民政策に基いて、昨年度移住民として、台東庁下成功移住地に移住させた日の出村の煙草耕作者は、昨年以来、煙草の品質改良に努力の結果、本年度は、昨年度に比べて、耕作反別において、約二倍半の増加を見、収穫高においても、約二倍半の増加を見、なお、本月二十四日から、煙草専売令施行の際に、その一部を、専売局に売渡すことになっているが、本年度の収穫高は、約二千圓に達する見込みである。

# 高雄の夥しい滯貨 業者ら悲鳴を擧ぐ

## 船舶の不足が主因

【高雄電話】高雄港の昨今は海運界の好況に伴ひ、連日船舶が入港し、荷役に忙殺されているが、一方バナナの出荷期に入つて、毎日船腹の足船が殆ど全部バナナ積に振向けられている為、台湾産の砂糖（二十二日現在約二十八萬袋）に対する積取船の配当が殆ど皆無の状態にあり、倉庫は勿論、埠頭の艀置場も満載の砂糖で埋まり、荷役業者は勿論、製糖会社としては砂糖倉庫の増設が急務とされてゐる。

# 第二聯隊長が來花

【花蓮港電話】聯隊長は二十二日午後四時十五分発列車にて臺北経由來花、聯隊には第三大隊副官、青年團長其他多数出迎へた、二十三日は第三大隊の檄閲を終す筈である。

# 熱湯を浴び 赤坊即死

【基隆電話】基隆市國境町（三）に住む二才の男児は、二十四日午後四時頃、自宅の風呂場で、誤つて熱湯を浴びて即死した。

# 牛番が持病の癲癇で溺死

## 二千五百圓の保險が附しあり 死因に疑の目光る

【新竹電話】竹東街竹東街（旧姓劉水淵、こ）は十五日（後三時頃）竹東街附近の山中で牛を放牧してゐたが、夜に入つても帰宅しないので、家人が心配して捜索したところ、翌十六日午前十時頃、同街内の水溜に落ち、持病の癲癇がおこり顔死した、劉人の家族は、銀座にも拠す二千五百圓の保險が掛けられてをり、その関係上、家族の者は、二十二日午後一時頃まで、同人の死体を見ないので、不審に思ひ、同日午後三時頃、竹東署に届出たが、署員が、現場に出張して、検視の結果、同人は、癲癇の持病があり、且つ、保險金が掛けられてゐるので、死因に疑ひがあるとして、目下取調べ中である。

# 太鼓銅鑼を打鳴し 數百名が對峙

## 急を聞て駈付た警官のため 一時平穏にをさまる

【台東電話】台東庁下成功移住地に移住させた、高雄市鼓山町三百二十一番地、林秀雄（三十）は、昨年十月頃、高雄市内の某氏に対し、「自分は台湾銀行の行員と懇意であるから、金塊を内地へ密輸出すれば、相当の利益がある」と甘言を弄して、七十圓を詐取したが、その後、金塊の密輸出が容易に出来ないので、詐取した七十圓を返還しようとしたが、既に遊興費に費消してしまったので、返還することが出来ず、遂に詐欺罪として、高雄署に留置取調べられている。

# 花蓮港中學校の 敷地が決定

## 場所は米崙築港 官舎の隣接

【花蓮港電話】花蓮港中學校敷地は、既に米崙新市街の既設新城道路より、ゴルフリンクへ右折する区劃内の二千二百坪を以て校舎敷地とされてゐたが、庁長が過般下檢の結果不適当と認め他に適地を物色中の所この程米崙官舎敷地内二千坪と決定した、右の土地は既に整地してある。

# 六百餘圓の 現金泥捕はる

【高雄電話】高雄市鼓山町三丁目二百番地、林秀雄（三十）は、昨年十月頃、高雄市内の某氏に対し、「自分は台湾銀行の行員と懇意であるから、金塊を内地へ密輸出すれば、相当の利益がある」と甘言を弄して、七十圓を詐取したが、その後、金塊の密輸出が容易に出来ないので、詐取した七十圓を返還しようとしたが、既に遊興費に費消してしまったので、返還することが出来ず、遂に詐欺罪として、高雄署に留置取調べられている。

# 基隆神社で 盛大な奉告祭

【基隆電話】基隆神社の本年度例祭は、十三日午前九時から、同社境内に於て、盛大に執行されたが、当日は、基隆市内各小学校児童の参拝あり、又、午後一時から、同社境内に於て、相撲大会が開催され、参加力士は、約百名に達し、観衆は、約二千名に上つた。

# 花蓮港の 農事打合會

【花蓮港電話】花蓮港農會の本年度農事打合會は、二十二日午前九時から、農會會議室に、関、農村課長、田中農務係長、各區會長、支部長、在郷軍人分會長、その他農事指導者多数出席、午後四時頃、閉會した。

# 戰歿者の追悼會

【花蓮港電話】吉村本願寺布教所では、二十二日午後一時から、戰歿者三十三回忌、満洲事變戰歿者五回忌の追悼法要を營み、村長多数参列盛況であつた。

# 花蓮港の 原野燒ける

【蕃地電話】二十一日午前十時頃、鳳林郡下に於ける、その假説ベル中であるが、

# わかもと

禁胃腸

許特法製

## 慢性衰弱の細胞賦活療法

### 慢性衰弱に對する作用

慢性胃腸病、肺結核等で經過が久しきに及び、漸次衰弱を加へて來た者、或は肺炎チフス、赤痢等の傳染病で恢復の遲延したため、全身的の衰弱を來した者などは、一種の無力狀態（マラスムス）に陷つて、諸種の療法もその無力狀態から病者を脫せしめることの出來ない場合を、賢家は屢々經驗せられることと思ひます。

これらの慢性衰弱に對して、普通に最も多く行はれる療法は、ビタミン其他の榮養素を與へて、足らざる榮養を補ひ、或は消化劑を與へて胃腸の機能を助けようとすること等でありますが、それ等の手段が殆んど見るべき効果を示さない場合に遭遇されたる賢家は、最後に遺されたる手段として、また必ずヘーフエ菌劑「わかもと」による細胞賦活療法を試みらるべきであります。

### 結核衰弱に對する作用

ヘーフエ菌はその種類甚だ多く、細胞賦活作用を特長として許さるべきものは、その中の極めて特殊なる種類に限られて居ります。「わかもと」はその特殊なる菌を製劑化した、最高の藥用ヘーフエ菌劑であります。

結核性衰弱に對する細胞賦活療法の効果は、先づ榮養の向上において現れます。食慾が振ひ起され、食物の消化が活潑となり便通が調整されます。そして體内蛋白の消耗が抑制され、補充されますから、痩せる一方にあつた體重が增加して來ます。

一面においては、病菌に對する抗體の增加しますから、結核菌の增殖を阻止して、毒素の生を促し、赤血球、白血球ともに增加して、發熱、頭痛、疲勞感、食慾不振等がおのづから消退し、患者の自覺症狀を輕快せしめて、病勢を恢復に向はしめます。

### 便秘と下痢に對する作用

慢性胃腸病に對する「わかもと」の細胞賦活療法は、便秘と下痢のそれ〳〵に對する作用によつて、甚だ面白い例證を見出します。

便秘と下痢は、症狀としては正反對のもので、對症療法によれば便秘に用ひる藥劑と下痢に用ひる藥劑とは全然別箇のものであります。しかるに「わかもと」は便秘にも下痢にも用ひられ、連用して何等副作用なき便通促進劑として實用されると同時に、急性慢性の胃腸カタルに對しては、腸管の炎症を鎭め、過敏症を去り、消化力を恢復して、下痢便を正便ならしめるに實用されます。

これは「わかもと」が細胞賦活劑として、正常の機能を失つた細胞に活力を與へ、ヘーフエ菌本來の正しき機能を營ましめる効果を示すもので、胃酸過多症、胃アトニー、胃潰瘍等の胃細胞の慢性的變性、或は衰弱に等しき効果あるのも同じ理由であります。

### 細胞賦活作用

細胞賦活療法とは身體の各器官を構成する細胞にあるヘーフエ菌劑「わかもと」の細胞賦活作用によつて、或は微弱となつてゐるのを、再び活動せしめ、それによつて諸種の疾患をおのづから消散せしめようといふものであります。

この細胞に賦活するヘーフエ菌劑中のものは Artivenon の譯語であります。

## 大懸賞特壹第3回當籤發表

### 第二回愛用者謝恩券抽籤賞等當籤者

（七十五萬枚抽籤）

三等當籤者（三圓割增拾圓勤業債券二枚）

植村米太郎殿　森谷岩三殿　小塚眞喜殿　二宮芳子殿　澤地福太郎殿　佐藤祐作殿　和田和殿　加納龍一殿　吉川正二殿　和田治三郎殿　茨木政一殿　水上庄次郎殿　中川順一殿　高崎芳子殿　關戸寅松殿

（三圓割增拾圓勤業債券一枚）

宮久保榮一殿　野田信次殿　伊藤民男殿　佐竹喜市郎殿　生駒駿三殿　麻生義雄殿　中尾秋彥殿　横山克治殿　大井正則殿　大石忠次郎殿　杉山寅之進殿　山田忠三郎殿　辻本直殿　栗林ごと殿　酒向鷲市殿　平野のし殿　江島ゆり殿　岡田宮治殿　今野敏子殿

### 貳等當籤者（三圓割增拾圓勤業債券一枚）

（略）

### 三等（千五圓貯蓄債券）

（略）

### 四等（一圓四十錢相當品）

（略）

## 廉低價藥

粉末丸〇五瓦錠三〇〇

一圓六十錢

## 類似藥に御注意

「わかもと」には近頃その類似藥と稱するものが澤山出來ましたが、これらは何れも「わかもと」の製法を模倣したものであつて、「わかもと」の如く細胞賦活作用を有するものではありません。

「わかもと」は特殊の製法によつて製造されたヘーフエ菌劑であつて、他の藥品とは全く異つたものであります。

會の兒育と養榮補本もとかわ

# 新竹の紙幣詐欺事件の豫審終結

## 被害額凡そ五萬圓
## 被告の數約二十名
### 欺された富豪連た茫然自失
### 詐欺賭博事件も豫審終る

新竹市五福街一〇八番戸、料理屋業、黄阿明（三五）外約二十名に対する詐欺被告事件は、新竹地方法院検察官小林信一郎の取調べが終了したので、去る二十一日午後一時、同法院刑事第一号法廷で豫審終結の言渡しがあつた。

被告阿明は、昨年一月頃、新竹市内の富豪連を相手に、紙幣の偽造を行つて居ると称して、紙幣の束を見せ、これを安く譲渡すると申込み、相手方が金を出すと、紙幣の束は本物の間に白紙を挟んだ偽物であつたので、相手方を欺いて金を騙取したものである。

阿明は、この手口で、新竹市内の富豪連を相手に、次々と詐欺を働き、その被害額は凡そ五萬圓に上つたが、被害者の多くは、自己の名誉を重んじ、警察沙汰にすることを嫌つて、泣き寝入りとなつたものが多く、検挙されたものは僅かに十数名に過ぎなかつた。

阿明は、この外に、賭博場を開帳して、賭客から賭金の一割を手数料として徴収していたが、これも検挙されたものは僅かに十数名に過ぎなかつた。

## 全日本馬術大會
### 十三歳の豆選手に榮冠

昭和十一年度全日本馬術競技大會第一日は十八日午前八時より千葉縣習志野騎兵學校馬場に於て開催された（豫報）

榮ある第一回全日本馬術競技大會の豆選手に輝く栄冠は、十三歳の豆選手馬杉喜久子さん（東京府立第一高女）の頭上に輝いた。

馬杉さんは、昨年の秋、全日本馬術競技大會の豆選手として、東京代表の一人に選ばれ、東京代表として、大阪代表と競技したが、惜しくも敗れて、第二位に甘んじたが、今回は、東京代表として、大阪代表と競技し、見事、第一位に輝いたものである。

## 永野海相學生聯盟海洋航空部を視察
### 水雷艇は十八日午後二時航空母艦「鳳翔」に向ふ

## 三笠宮殿下
### 湊川神社に御參拜
### 滴鮮御視察の御途次

【神戸二十二日發】三笠宮殿下には、滴鮮御視察の御途次、二十二日午後二時二十分、神戸駅に御着、直ちに自動車にて湊川神社に御参拝、同社にて暫く休憩の後、同三時二十分、神戸駅発の特別列車にて、京都に向はせられた。

神戸駅頭には、兵庫県知事、神戸市長、兵庫県選出代議士、其他官民多数、奉送迎した。

## 海員審判二件

【神戸二十二日發】神戸地方海員審判所にては、二十二日午前十時より、海員懲戒法第十八條に依る、左記二件の審判を開廷した。

一、機関部員として、船舶職員法第二條に規定する職務に従事するものは、同法第四條に規定する海技免状を受有するものでなければならないにも拘らず、これを受有しないで、機関部員として、船舶職員法第二條に規定する職務に従事したもの。

二、船舶職員法第四條に規定する海技免状を受有するものは、同法第十條に規定する海技免状を受有しないものを、船舶職員として、船舶職員法第二條に規定する職務に従事させてはならないにも拘らず、これを受有しないものを、船舶職員として、船舶職員法第二條に規定する職務に従事させたもの。

## 高千穂丸
### 神戸を出帆

【神戸二十二日發】大阪市役所練習船高千穂丸（一、九〇〇噸）は、市會議員、市會事務局職員等約百名を乗せ、二十二日午後四時、神戸港を出帆、一路、豊後水道を経て、別府港に向つた。

## 青木教授談
### 動物實驗から分離して噴乳動物實驗を排へよう

【神戸二十二日發】大阪市衛生試験所長青木教授は、二十二日午後、神戸駅発の特別列車にて、神戸駅に帰着したが、自分は従来、動物實驗から分離して、噴乳動物實驗を排へようと云ふのであつた

# 華俄締結秘密協約
## 稱西北協約為其基礎
### 一致排南地盤一允移駐邊境

東京二十二日電。國際視察團。來進出協約之情報。我關係當局。至二種度。認為此協約。係共產俄都政府。派遣中國共產黨指揮指導者。與南京政府之間。締結西北協約之密約。係共產黨內容如左。

一、俄都政府。承認新疆省為中國行政區之一。南京政府。承認蘇俄在新疆之勢力。

二、中國共產黨。放棄華南方面之地盤。南京政府。承認共產軍移陝西。甘肅山西。青海。寧夏。內蒙等。中國邊境地方。以為條件。

三、中國共產軍。及蘇俄聯邦。其在中國內。赤化宣傳。第三國或侵有中國邊境地區之時。兩國以為共同之敵。協力擊退之。

西北協約。更加擴大。我對華對俄政策。此過重大時期。其成行所極注視云。

# 廣田首相招待樞臣
## 述抱負請協力援助

東京二十三日電。廣田首相。荒井正副議長。以下各閣僚。招待午餐會。樞府平沼。先設小宴。員會之事。意見一致。同和會。擬推江口定雄。岩田由造兩氏。為小委員云。

# 特命檢閱使
## 視察基隆
### 正午乘艦出港

既報特命檢閱使末次海軍大將。二十二日午前九時半。乘飛行艇上。從專宣傳。凡昭和十年五月五日以出降生幼兒。及滿可參加選舉云。

# 樞府本會議
## 一二案可決
### 聖駕親臨

東京二十二日電。樞密院定例本會議。在聖駕親臨之下。二十二日午前十時開於宮中東溜間。樞府本沼。荒井正副議長。外各顧問官。並村上書記官長。前者船客二百四十名。後者三百十五名。計五百五十五名之勞働者。一時搶到臺灣。又廣東丸。因濃厚所阻。不能入廈門港。二十日夜砲泊港外。陰與外國船衝突。據同船所傳。到情報如左。

滿鐵欲在福州。安溪間。敷設鐵道。該測量已完了。

# 福州安溪近將敷設鐵道
## 臺北州農會
### 春茶講習
### 焙製各種茶

臺北州農會。以現屆春茶上州農會。且本年茶業前途一般憂慮。為期焙製技術向上。訂來二十五日起十二日間。在七星郡汐止街。開始春茶製茶講習會。講習員二十名。農會職員。講習種類。為包種茶。烏龍茶。紅茶。毛峰茶等。

# 廣田首相招待樞臣
## 述抱負請協力援助

東京二十三日電。廣田首相。荒井正副議長。以下各樞府顧問官。並村上書記官長。政府廣田首相。以下各閣僚。藤沼書記官長。大田法制局長官。吉田調查局長官。出席。席上廣田首相。述組閣經過。並對特別施政方針。說明為協力援助。平沼議長答辭。和與歡談。午後二時散會云。

# 退職積立金法案
## 實施費十萬餘圓
### 大藏省當局亦同意計上

東京二十二日電。內務省。關所準備提出特別議會之退職積立金法案。亦經大藏省研究結果。官吏退職給與金。現在比較的高率。別無與該法案抵觸之恐。其實施所要費十一年度分十萬圓餘。同意計上。法制局審議如何。該法案之提出議會。可見確實云。

# 樞府委員會擬設小委員
## 作成實革建議案

東京二十二日電。貴族院研究會。關貴族院改革建議案提出之件。且決定態度。二十二日午前十時。在事務所。開協議員會。濱口貞亮伯。報告二十日交涉會經過。此人為議。山岡萬之助。八山嘉明兩氏。及有馬賴寧伯。開陳答見如左。

貴族院改革所關建議案提出。同無異論。惟現行制度之缺陷。自行指摘。則所當避。其主文或理由書中只含其設置機關。而為調查之意之程度。制度改革。及運用問題。可於新機關。適當審議。意見一致如左。

# 南京日僑買小學用地
## 市政府故刁難

南京二十二日電。最近南京日本人會。為僑民小學校。收地所用。由華人買地充之。乃南京政府。故意強制收容。使之建築不能。會添示以排日態度。須屢經催促。二十二日午後五時。外交部。訪陳大長。屢表警告。要求國民政府。嚴正非行為。稱以大使館敷地問題。屢次交涉。未見土地決定。昨下院云。

# 米新稅制案
## 提出本會議

華府二十二日電。米國總大統領。所要七億。乃至八億弗增收。包含在內之新稅制案。二十一日。提出本會議。

# 七八億弗增設
## 經總領事嚴重抗議

南京二十一日電。最近南京日本總領事。與川越大使之駐華使節。及運用問題。可於新機關。適當審議。意見一致如左。

同十一時二十分散會。訂來三十日開總會諮之云。

# 川越新大使
## 國府承認

東京二十一日電。貴族院議長。近衛文麿。今四日午前十時。參內。拜謁天顏。退下後。午前十時。在二日。行皮民會。

# 同成同和贊成
## 設小委員

東京二十一日電。貴族院。改革問題所關。同成同和。兩會派。十二日午前十時。各開例會。協議結果。贊

# 臺灣宜順應南進政策
## 為礎石圖大發展
### 平塚總務長官上京

平塚總務長官。偕鶴山屬。種々善後。為考慮。臺灣。殊事情。欲協之善處。外地之某記科就劃其他案件。政府似欲提案。是等亦欲考慮臺灣特殊事情。十分協與之折衷。臺灣宜順應帝國南進政策。為其礎石。圖大發展。考望全島民一致協力也。

# 高雄市籌設
## 衛生組合

高雄州衛生課。鑒于日前高雄市內流腦及天然痘。

# 遞信部
## 開海員審判

地方海員審判所（遞信部內）。去二十一日午前十時。開海員審判。有戶井水審判長。瀨戶口。松木審判官。打鼓理事官列席。首由理事官對被審人。求懲戒如左。至十一時閉廷。各件訂來五月二十九日午前九時。判決言渡。

▲昭和九年九月三十日。坐礁于新南群島之機船第五幸榮丸事件。停止海技免狀行使一月間。濱田榮治。

▲昭和九年十二月三十日坐礁于金包里海之機船第十七旭丸事件。停止同一月間。足立左內。

▲不搭乘機關長而運航之職務怠慢事件。停止同一月間。金城珍助。

▲昭和十年五月二日。坐礁于富貴角。三名搭乘後五時。外交部。訪陳大長。屢表警告。要求國民政府。嚴正非行為。

# 九人赴東海岸探鑛
## 一名失却眞相莫明
### 蘇澳郡司法係實地檢證
### 暫認為失却尚繼續查探

蘇澳郡警察課。本州警部外課員及宮崎代會。開第十三回通常總代會。當日午前十時。在信用組合。開第十三回通常總代會。當日午前十時。在信用組合。開第十三回通常總代會。當日午前十時。在信用組合